



行事（部活）と勉強

2018年、平成30年が始まった。どうあがいても（あがかないか…笑）、今年が高校生らしい生活ができる最後の年である。その最後の高校生活をともにする仲間として、25Rには、そして35Rには、素晴らしいメンバーが集まった。そのラッキーさを生かして、生涯を通してその思い出とともに生きていくことができるような、そんな思い出深い一年にしてほしい。

日比谷を卒業してしまえば、ほとんどの人が「白線流し」や「棒引き」や「全員リレー」などに挑戦することはなくなるだろう。舞台上上がり、何百人もの聴衆に向かって合唱を披露するといった経験も、その後合唱に関わる人生を送らない限り、二度と経験することはできないに違いない。ましてや、ライオンやキリンやイボイノシシに扮したり、そのライオンやキリンやイボイノシシにライトを当てたりする経験は、人生最後のものと言えるだろう。そういうかけがえのない時間を、これからこの一年で君たちは過ごすことになるのである。その意味をよ〜く噛みしめて、この一年を意義深いものにしていきたいものだ。

そして、部活を続けている諸君は、これからの大会の一つ一つが、自分がやり続けてきた成果を表現する機会となる。悔いなく力を発揮できるように、残りの日々を充実させよう。

＊

と同時に、思い出が思い出として輝くためにも、卒業する時に、自分の夢の実現に結びついた進路が拓けていることが理想である。その実現に向けても、日々の努力の積み重ねが求められる一年である。

自動車会社のCFではないが、「幸せは歩いてこない、だから歩いて行くんだね」である。き

ちんと一歩一歩歩み続けた人は、必ず幸せにたどり着く。日比谷は公立トップ校。だから、進学に関しては、かなわない夢などないといっても過言ではない。かなわないとすれば、それは自分自身の問題だろう。自分自身の問題だからこそ、それは解決できるはずである。強い意志をもって、この一年を過ごしてほしい。

＊

行事（部活）のこと、勉強のこと、二つのことを書いたが、担任としてどちらが大切か一つを選べと言われれば、一般論としては、もちろん前者である。大学受験は、何度でもできる。しかし、この一年間の高校生活は、決して繰り返すことのできないものだからである。

この二つは、両立することが理想であり、それを目指すべきである。担任としてもそれを期待したいが、どうしても選べと言われれば、上のようなになる。そして、これも何度も聞いていると思うが、結果として、行事や部活に積極的に取り組んだ諸君（クラス）ほど、それが卒業時の結果に結びついているというデータが実際にあるのである。

ただ、二度の担任経験から一言だけ添えさせてもらうとするなら、希望通りの成果を得た諸君の中には、すべての行事・部活が終わった後に爆発的に力を伸ばす人もいたが、多くの諸君は、行事・部活をやりながらも、きちんと自分で決めたルーティンを（少しずつでも）継続的にこなしてきた諸君であったということである。完全なる両立はできなくとも、両立しようと努力した人たちが、最終的に自分の希望する成果を手に入れているということである。そのことは、ぜひ心に刻んでおいてほしい。